

公益財団法人いのちの森文化財団 (株) 水輪ナチュラルファーム のみな様

「ヤングコーンって どう栽培されているか 知ってる？」。

水輪ゲストハウス「水織音」に宿泊させていただいて戻り、私は次の日早速、職場で質問してみました。職員は、「えっ???’園長は何を言ってるの、というようにしながらも「トウモロコシみたいな木(茎?)でしょ!」と誰もが答えました。ヤングコーンという野菜があるといった内容の、予想通りの答えです。

4日前に保育園では、瑞々しいヤングコーンを「いのちの森文化財団」さんから、支援でいただいておりますので、2才児と一緒に皮をむき、その時の様子を研修生のみなさんにお話しさせていただきました。「私も今回初めて生のヤングコーンを見ました」とお話しをしてから、子どもがそれを見て「まだ食べられないよ 赤ちゃん」と言っていたこと。給食の冷やし中華の時に上に飾って美味しくいただいたこと。2才児でも容易に皮がむけて、喜んで皮むきしたことなどをお話しました。

当園では、震災前までは、給食用の味噌を自分たちで作っていたことや、豆腐も手作りすること。こんにゃく芋を育ててこんにゃくを作って食べたこと。食育に力を入れてきたことなども一緒にお話しをさせていただきました。その時の研修生のみなさんの表情が、後になって分かったのです。きっとこの時、職員と同じように「えっ???’という思いで聞いていたのだと思いました。

翌朝、実際に畑を拝見して、食べごろのトウモロコシが実っているところで、お仕事をしている研修生に説明してもらい、ヤングコーンの正体が判明いたしました。その説明を聞いてなるほど…でした。おかしいやら質問したこと自体が恥ずかしいやら、一緒に行った友人と大笑いしながら、前の晩の研修生のみなさんのきょとんとした表情が納得できました。ヤングコーンは、子どもが言っていたように、正にトウモロコシの赤ちゃん(1本の苗に、1つだけ実らせるために、他のものは早めに収穫する)だったのです。私たちはこのようにして食べる習慣がなかったので、今回の体験をするまで気づきませんでした。

野菜の栽培は、自然以外の物は何も加えず大地の力で育てる栽培法で行われていました。たくさんの野菜が立派に実っていて、無農薬はもちろん肥料もやらないということが、初めは信じられませんでした。しかし目の前の畑には、どの野菜も生き生きと育っていて、野菜にみなさんの気持ちが通じていると思わせるほど、見事なものでした。畑の道を歩くとたくさんのイナゴが飛び交い、農薬が使われていないこともよくわかりました。私は、この場に保育園の子どもたちがいたらきっと、夢中になって虫を追いかけまわすだろう、などと想像しながら栽培されている野菜や、苗の仮植の作業の様子を見せていただきました。

大地は生命の源、生命そのものです。このことは今回、いのちの森文化財団・水輪ナチュラルファームさんを訪れてみて、今更のように確信いたしました。黒々とした広大な大地、白樺林の中に

は高山植物、畑には額に汗をしながら働く人々の笑顔、豊かな実り、このような光景を見て、白樺の木こそありませんが、放射能の汚染がなければ私たちの町でも、当たり前のように人々は自然に親しみ、田畑を耕し、収穫を喜び、友人知人と恵みを分かち合っていて語っていたのに。と哀しみの感情がこみ上げてきました。

震災、特に原発の爆発事故は、私たち福島の人々から生命の源である大地を奪い、未来を奪いました。放射線量に違いはありますが、自然の隅々まで、あらゆるものが放射性物質によって汚染されてしまったのです。放射能汚染は、未来を奪った人々の心や、コミュニティをも壊してしまいました。傷つき壊され引き裂かれた人々の心は、震災以前の状態には戻れないのではないかと、思わせるほどで、深刻です。

私たちの住む南相馬市は、全村避難をしている山間部の飯舘村と隣接している裾野の町で、緑豊かな山々から流れる川、平野、太平洋の海、と自然に恵まれたところです。原町聖愛保育園も南には県立の里山公園が眼前に広がり、子どもたちは一年中園外に出かけて自然にふれ、不思議や発見を楽しみながら、五感で感じる体験をして育ってきました。しかし今は放射線量が高く、一步も公園の中には足を踏み入れることはできません。

東京電力福島第一原子力発電所からおおよそ20キロメートル圏内で「警戒区域」に指定された小高区、30キロメートル圏内の「緊急時避難準備区域」に指定された原町区、30キロメートル圏外の鹿島区に分かれ、原町区にある原町聖愛保育園は24.5キロメートルのところにあるために、震災直後から2011年度の半年間は休園を余儀なくされました。この先どうなるのか見当もつかない不安な日々を過ごしましたが、2011年9月末日に「緊急時避難準備区域」の指定が解除になったことと、除染を実施したことで10月より自園を再開することが出来ました。子どもたちも少しずつ避難先から戻ってきています。しかし一方では、避難したまま戻らない家庭、家売って家族全員で他県へ引っ越しをする家庭などもあります。

原発事故の収束の時はまだ遠く、この先の見通しはつかないままです。

このたび、いのちの森文化財団・水輪ナチュラルファームの皆様との出会いの機会が与えられて、本当に嬉しかったです。飯綱高原の雄大な自然の中には、清らかな凛とした空気、研修生の笑顔と真心のもてなし、美味しい野菜のごちそうなど、今私たちが取り戻したい、(日本も取りもどさなければならぬ)ものが満ち溢れていました。私は、これまでの心身の疲れが癒され、心豊かにされて新たな力をいただきました。

何よりも、塩澤様ご夫妻の献身的なお働きと愛情が、研修生のみならず周りのみなさんをも慰め力づけているものであることを強く感じてまいりました。本当にありがとうございました。感謝して。

2012年8月16日

社会福祉法人 ちいろば会

原町聖愛保育園 園長 遠藤美保子